

1月 食育だより

こんにちは。
給食のせんせいです♪



1月24日から30日までの1週間は『全国学校給食週間』です。
学校給食は栄養バランスのよい献立で皆さんの心と体の成長を支えるほか、
望ましい食習慣や給食について学ぶ大切な時間でもあります。
今回は、学校給食の始まりや歴史を見てみましょう。

明治 22年

子守りなどで学校に行けなかったり、弁当を持ってこることができなかったりする子どもが多かったです。

雨の日も風の日も

佐藤霊山さんというお坊さんが中心となって、托鉢をしてお金を集め、給食費にあてました。

学校給食の始まり

忠愛小学校では、給食が食べられるので、すべての子どもたちが学校で学べるようになりました。

※托鉢とは、お経を唱えて町を歩き、寄付をしてもらうことです。

学校給食週間とは？ (1/24~30)

日本の学校給食は、明治22年に山形県の忠愛小学校で始まりました。(上の『学校給食はじめて物語』を見てね。)

その後、戦争で一時中止になりましたが、戦争が終わって、昭和21年12月24日に東京都、神奈川県、千葉県の子供約250人を対象に試験的に実施されました。

この日、東京都麹町区永田小学校でララ物資の贈呈式が行われました。

昭和25年からは、冬休みの関係で1月24日より1週間を『学校給食週間』として、全国各地で開催されるようになりました。

(※ララ物資とは、アメリカの慈善組織ララが提供していた救援物資のこと。)

給食の歴史をみましょう！

明治 22年

おにぎり、塩ざけ、菜の漬物

昭和 20年

ミルク(脱脂粉乳)、みそ汁

昭和 27年

コッパン、ミルク(脱脂粉乳)、鯨肉の竜田揚げ、せんきゃべつ、ジャム

昭和 40年

ソフトめんのカレーあんかけ、牛乳、甘酢あえ、果物(黄桃)、チーズ

いま 給食

小学校 ↓

中学校 ↓

昭和 52年

カレーライス、牛乳、塩もみ、果物(バナナ)、スープ

※松原市では、昭和46年に小学校で初めて給食が実施されました。